



京都精華大学55周年記念展

# FATHOM—塩田千春、金沢寿美、ソー・ソウエン

京都精華大学ギャラリーTerra-S | 2023.11.17<sup>金</sup>–12.28<sup>木</sup>

11:00–18:00 | 休場日:日曜日 | 入場無料

主催:京都精華大学

企画:伊藤まゆみ(京都精華大学展示コミュニケーションセンター特任教員/ギャラリーTerra-Sキュレーター)、吉岡恵美子(京都精華大学芸術学部教員)

展示コーディネート:齋藤雅宏(京都精華大学ギャラリーTerra-S展示コーディネーター) | グラフィックデザイン:塩谷啓悟

〔図版〕塩田千春《愛についての手紙》2022 | Photo: Doug Eng | ©/ASPAR, Tokyo, 2023 and Chiharu Shiota



京都精華大学は開学55周年記念展として、塩田千春、金沢寿美、ソー・ソウエンによる展覧会「FATHOM—塩田千春、金沢寿美、ソー・ソウエン」を開催します。

三名の作家たちは、世代は異なりますが、それぞれ本学の芸術学部や芸術研究科で洋画を専攻しました。現在は、ともに「絵画」の範疇を飛び出し、空間全体を作品とするインスタレーションや、場所の歴史や記憶をテーマにした作品、「自己とは何か」を自身の身体を投じて探るパフォーマンスなど、多岐にわたる表現領域で活動を展開しています。また、大学卒業後、ドイツに渡った塩田、在日韓国人三世として育った金沢、2020年にアーティストネームを改名したソーは、共通してアイデンティティについての問いを表現の核に据えて制作しています。

展覧会タイトルにある「Fathom (ファゾム)」は、人が両手を左右に広げた時の幅に由来する「身体尺」のひとつで、水深を図るのに用いる単位(6フィート=183cm)を意味します。さらにそこから派生して、「理解する」「探究する」という意味にも使われます。自らの身体行為をとおして何かを探り、浮かび上がらせようとする三名の態度・手法を象徴的に表します。

さまざまな共通項を持つ彼・彼女らによる濃密なインスタレーションから繊細な平面作品までをとおして、それぞれが向き合ってきた間いや主題の「現在地」を体感していただけたらと思います。

## 塩田千春 | Shiota Chiharu

1972年大阪府生まれ。1996年京都精華大学美術学部（現芸術学部）卒業。ベルリン在住。大学卒業後、渡独。ブラウنشweig美術大学、ハンブルク造形美術大学、ベルリン芸術大学で学ぶ。過去に誰かが使っていたベッドや衣服、窓枠などを用いた大規模なインスタレーションで知られる。生と死という人間の根源的な問題に向き合い、場所やものに宿る記憶といった「不在の中の存在」を浮かび上がらせてきた。2001年、第1回横浜トリエンナーレに出品し、国内外で大きな注目を集める。以降、世界各国の美術館での展覧会や国際展に数多く参加。2015年には、第56回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展の日本館代表として選出。2019年に森美術館で開催された個展「魂がふるえる」は66万人以上の入場者を集め、その後、韓国、台湾、オーストラリアへ巡回した。近年の主な国内での個展に、「いのちのかたち」（2022、那覇文化芸術劇場なはーと／沖縄）、「塩田千春展：魂がふるえる」（2019、森美術館／東京）、「『胡蝶の夢』Art for Tomorrow 2018—京都府新鋭選抜展」（2018、京都文化博物館／京都）など。

上=《愛についての手紙》(部分) 2022 | Photo: Doug Eng | ©JASPAR, Tokyo, 2023 and Chiharu Shiota

## 金沢寿美 | Kanazawa Sumi

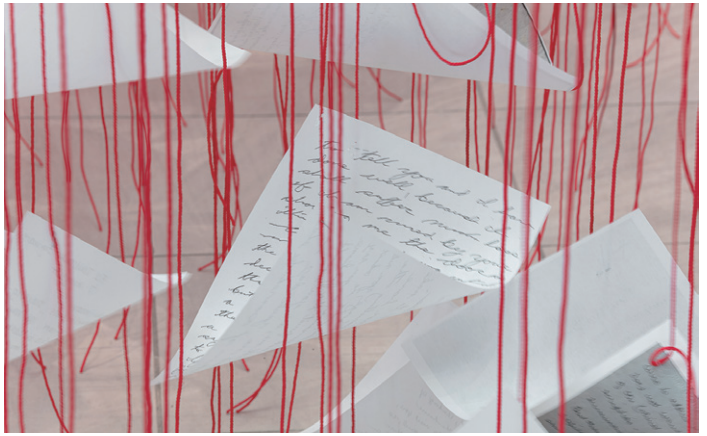
1979年兵庫県生まれ。2005年京都精華大学大学院芸術研究科修士課程修了。東京都在住。これまで日本と韓国の企画展やレジデンスプログラムで作品を多数発表。2013・2014年には北朝鮮に最も近い島で知られるペンニョン島に滞在し、実際の鉄条網を使ったプロジェクト作品を発表する。作品は「個と集団」をテーマに、その両者を行き来するようにして生まれる「間にある世界」を壮大なインスタレーションによって表現している。近年は新聞紙の一部を残して鉛筆で塗りつぶしたものをつなぎ合わせたインスタレーションに取り組む。近年の主な展覧会に、「Erase and See」(2023、大和日英基金 大和ジャパンハウス/イギリス)、「地球がまわる音を聴く：パンドミック以降のウェルビーイング」(2022、森美術館/東京)、「新聞紙のドローイング」(2021、公益財団法人現代芸術振興財団/東京)、「Beyond The Sun」(2019、仁川アートプラットフォーム/韓国)、「消して、みる。」(2018、游工房アトスペース/東京)など。

中＝《新聞紙のドロイング》2022 | 森美術館

ソー・ソウエン | Soh Souen

1995年福岡県生まれ。2019年京都精華大学芸術学部造形学科洋画コース卒業。福岡県在住。大学在学中から一貫して、自己を成り立たせる「身体」や「他者」、「記憶」への関心を軸に、絵画制作を探究している。2020年に桑園創りソー・ソウエン (Soh Souen) に名義を変更した。近年の主な展覧会に、「Your Body is the Shoreline」(2023、√K Contemporary／東京)、「ソー・ソウエン『絶えず壊れてきたし、壊れ続けている(壊れてはいない)』」(2023、rin art association／群馬)、「第17回福岡アジア美術館アーティストイン・レジデンスの成果展 2022 境界を縁とる—石、呼吸、埋立地」(2022、福岡アジア美術館7階 アートカフェ／ロビー他／福岡)、「Let it sway, like a ripple of agitation. さざなみのように、ゆらいでみる。」(2022、HIRO OKAMOTO／東京)、「Artists' Fair Kyoto」(2022、京都新聞社ビル／京都)、「ささやかな叫び A Modest Scream」(2020、The MASS／東京)など。

下=《my body, your smell, and ours》2020 | 摄影:野村如未 | The Mass



〔関連イベント〕

◎ソー・ソウエン パフォーマンス「Eggsercise」 | ※申込不要

日時:2023年11月17日[金] 11:00-15:00 | 会場:明窓館2Fエントランスほか

◎オープニングトーク | ※申込不要

日時:2023年11月17日[金] 17:00-18:00 | 会場:明窓館3FギャラリーTerra-Sほか

※アーティストトーク終了後、レセプション開催(予定)

◎アセンブリーアワー講演会：塩田千春「1000の夢を描く」 | ※要事前申込

日時:2023年11月18日[土] 14:00-15:30 | 会場:明窓館2F大ホール

◎キュレーターによるギャラリートーク | ※申込不要

日時:2023年12月9日〔土〕14:00-15:00、12月23日〔土〕14:00-15:00

会場：明窓館3Fギャラリー Terra-S

※諸般の事情により会期・時間・内容等が変更になる場合があります。

最新情報や関連イベントの申込方法などの詳細はギャラリーのWEBサイトでご確認ください。

京都精華大学  
KYOTO SEIKA UNIVERSITY

お問合せ：  
京都精華大学ギャラリーTerra-S  
〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137  
TEL: 075-702-5263  
E-mail: [galler@kyoto-seika.ac.jp](mailto:galler@kyoto-seika.ac.jp)  
<https://gallery.kyoto-seika.ac.jp/>

アクセス:叡山電鉄鞍馬線「京都精華大前」下車  
地下鉄烏丸線「国際会館」下車、3番出口よりスクールバス ※駐車場はございません。公共交通機関をご利用下さい。

